

(2) 定点把握疾患の届出状況(令和8年1月～6月)

<急性呼吸器感染症定点対象疾患>

※令和2年～令和5年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、他疾患の報告数が通常と異なる傾向であったため、平成29年～令和元年及び令和6年～令和7年の平均を過去5年平均とし、比較を行った。

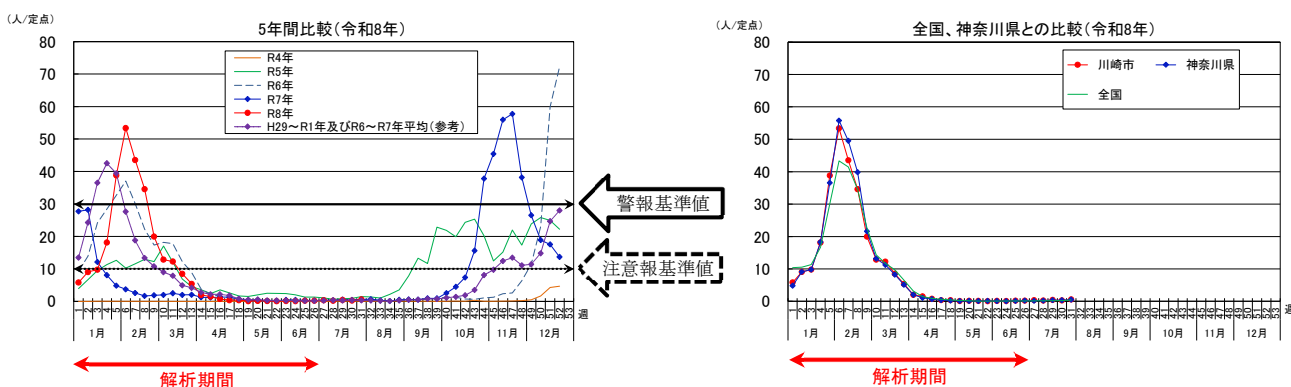
インフルエンザ(警報基準値:定点当たり30人、注意報基準値:定点当たり10人)

【川崎市】

今期(令和8年1月～6月)は定点当たり10.77人の報告があり、過去5年平均と比較すると1.06倍で、例年並みのレベルで推移しました。

2025/2026シーズン*は、令和7年第40週(9月29日～10月5日)に定点当たり患者報告数が2.52人となり流行期(定点当たり1.00人)に入った後、第43週(10月20日～10月26日)に定点当たり患者報告数が15.63人となり、流行発生注意報基準値(定点当たり10.00人)を超えました。第44週(10月27日～11月2日)には定点当たり37.83人となり、流行発生警報基準値(定点当たり30.00人)を超え、第47週(11月17日～11月23日)に流行のピーク(定点当たり57.73人)となりました。その後、報告数は一旦減少したものの、令和8年の年始から再び増加に転じ、令和8年第5週(1月26日～2月1日)に再度流行発生警報基準値を超えました。第6週(2月2日～2月8日)にシーズン2度目のピーク(定点当たり53.38人)を迎えた後、第16週(4月13日～4月19日)には定点当たり0.75人となり、非流行期となりました。

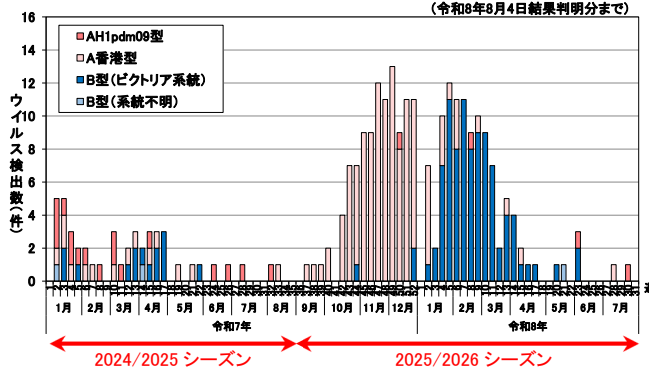
*2025/2026シーズン: 令和7年第36週～令和8年第35週(令和7年9月1日～令和8年8月30日)



なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりでした。2025/2026シーズンは、令和8年第26週(6月22日～6月28日)までに、A香港型が118件(55.1%)、B型(ビクトリア系統)が90件(42.1%)、AH1pdm09型が3件(1.4%)、A香港型及びB型(ビクトリア系統)の重複検出が2件(0.9%)、B型(系統別不能)が1件(0.5%)検出されました。

血清型別インフルエンザウイルス検出状況

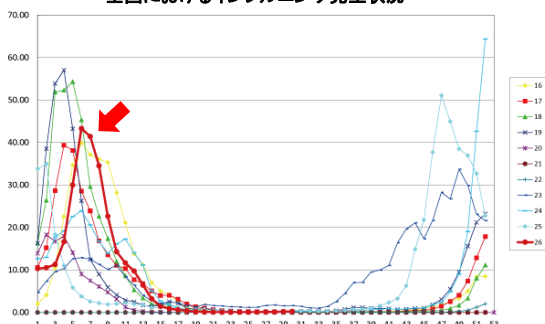
(令和8年8月4日結果判明分まで)



【全国及びその他】

全国的にも例年並みのレベルで推移しました。

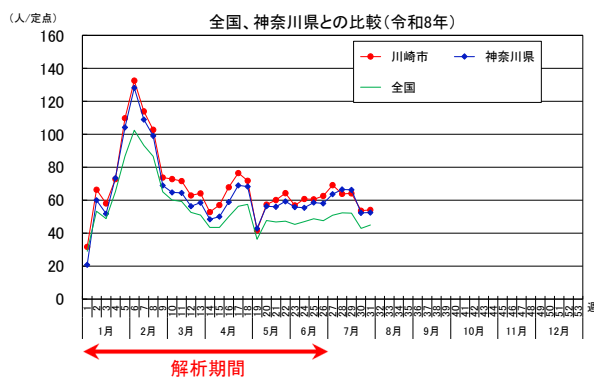
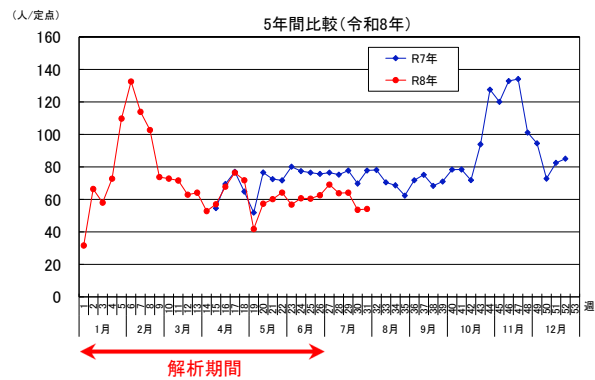
全国におけるインフルエンザ発生状況



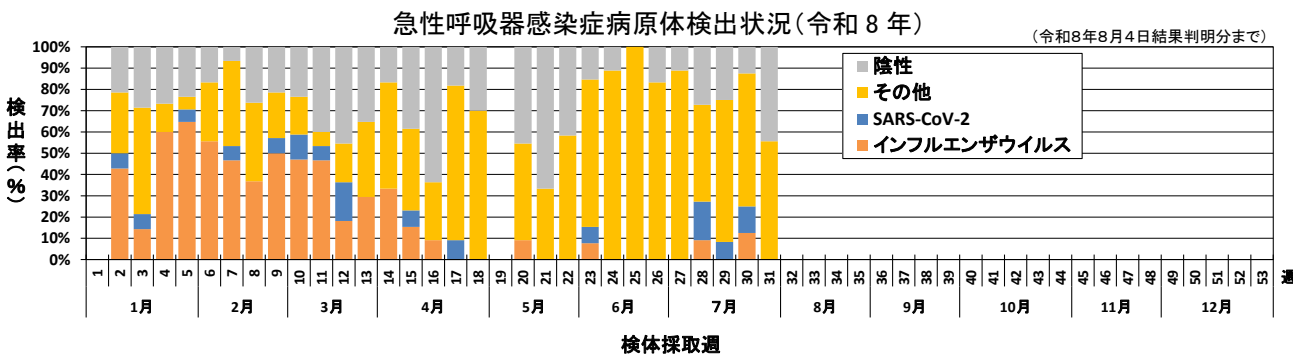
急性呼吸器感染症

【川崎市】

今期は定点当たり 70.83 人の報告がありました。第 4 週（1 月 19 日～1 月 25 日）以降、インフルエンザの流行に伴い報告数が増加し、第 6 週（2 月 2 日～2 月 8 日）に流行のピーク（定点当たり 132.57 人）となりました。その後報告数は減少しましたが、第 16 週（4 月 13 日～4 月 19 日）から第 18 週（4 月 27 日～5 月 3 日）にかけて報告数がやや増加しました。



また、令和 8 年は第 26 週（7 月 22 日～7 月 28 日）までに、病原体定点から 320 件の検体が搬入され、病原体検出状況は次のとおりでした。なお、320 件のうち 90 件（28.1%）が陰性でした。



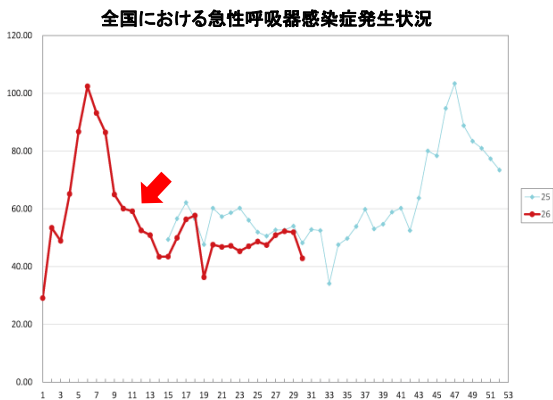
急性呼吸器感染症病原体検出状況(詳細)

病原体		検出数(件)	検出率
インフルエンザウイルス		108	33.75%
新型コロナウイルス		19	5.94%
その他	ライノウイルス	65	20.31%
	ヒトメタニューモウイルス	35	10.94%
	アデノウイルス	28	8.75%
	ヒトパラインフルエンザウイルス	26	8.13%
	RS ウイルス	8	2.50%
	エンテロウイルス	1	0.31%

(重複検出検体あり)

【全国及びその他】

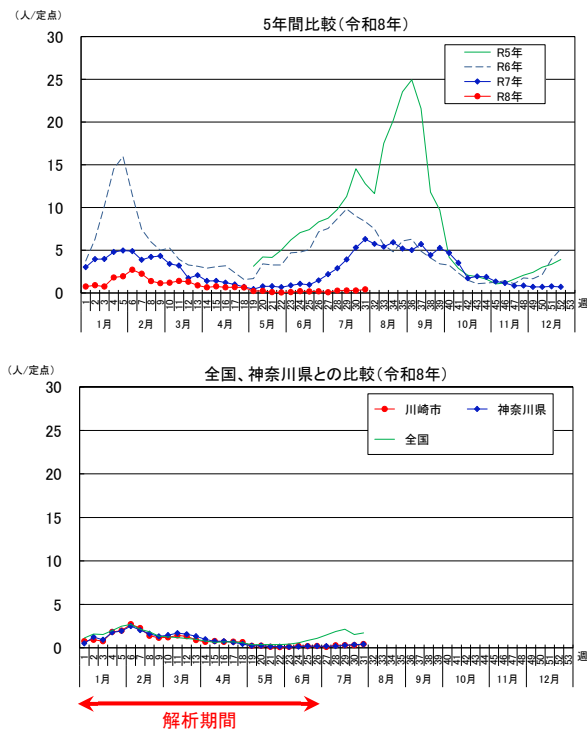
全国的にもインフルエンザの流行シーズンに増加しました。



新型コロナウイルス感染症

【川崎市】

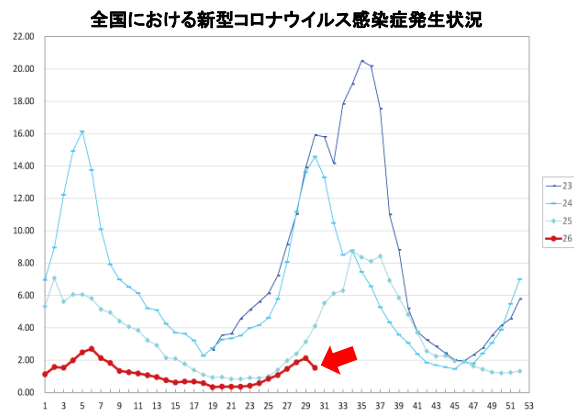
今期は定点当たり 0.90 人の報告があり、令和 6 年及び令和 7 年の平均と比較すると 0.23 倍で、かなり低いレベルで推移しました。第 4 週（1 月 19 日～1 月 25 日）以降患者報告数がやや増加し、第 6 週（2 月 2 日～2 月 8 日）に流行のピーク（定点当たり 2.72 人）となりましたが、その後は減少しました。



なお、急性呼吸器感染症として病原体定点から 320 件の検体が搬入され、そのうち 19 件（5.9%）から新型コロナウイルスが検出されました。

【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。



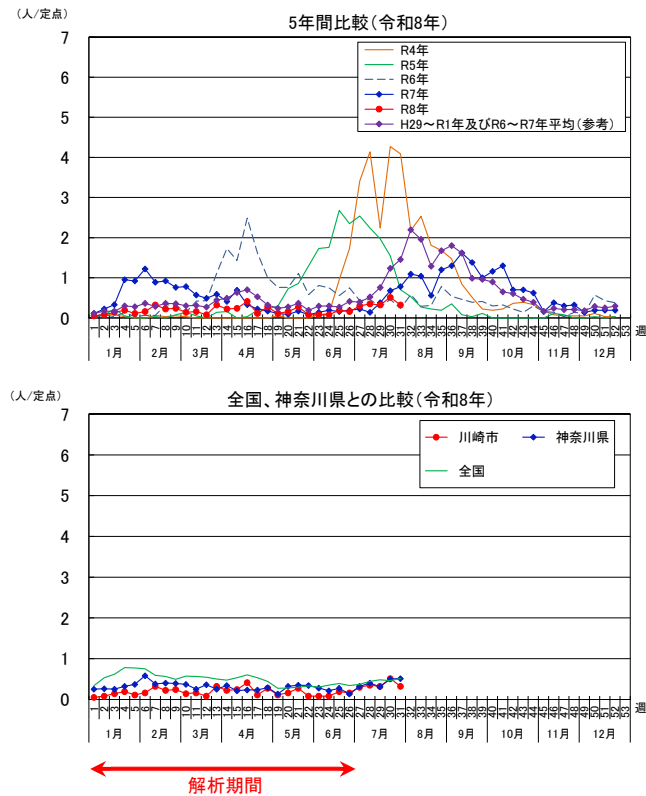
＜小児科定点対象疾患＞

※令和 2 年～令和 5 年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、他疾患の報告数が通常と異なる傾向であったため、平成 29 年～令和元年及び令和 6 年～令和 7 年の平均を過去 5 年平均とし、比較を行った。

RSウイルス感染症

【川崎市】

今期は定点当たり 0.18 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 0.53 倍で、例年より低いレベルで推移しました。

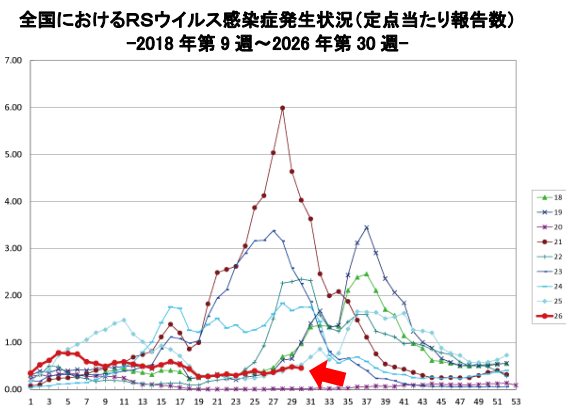
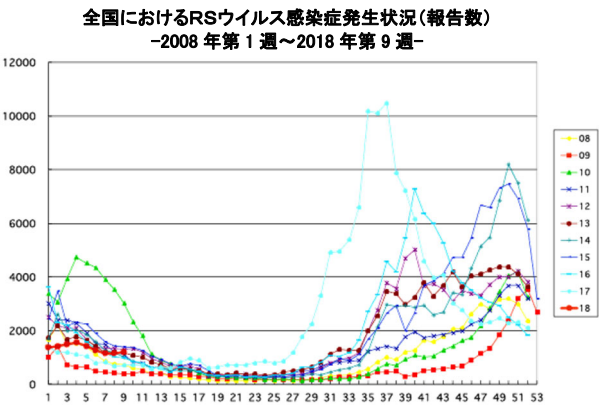


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりでした。

区名	患者性別	患者年齢(月齢)	検体採取日	検査材料	検査結果
中原区	女	0(8 か月)	R8.1.19	鼻咽頭拭い液	RS ウイルス B 型
中原区	男	0(6 か月)	R8.1.21	鼻咽頭拭い液	RS ウイルス A 型
中原区	男	1	R8.2.2	鼻咽頭拭い液	RS ウイルス A 型
中原区	女	2	R8.4.20	鼻咽頭拭い液	RS ウイルス A 型

【全国及びその他】

全国的には例年並みのレベルで推移しました。



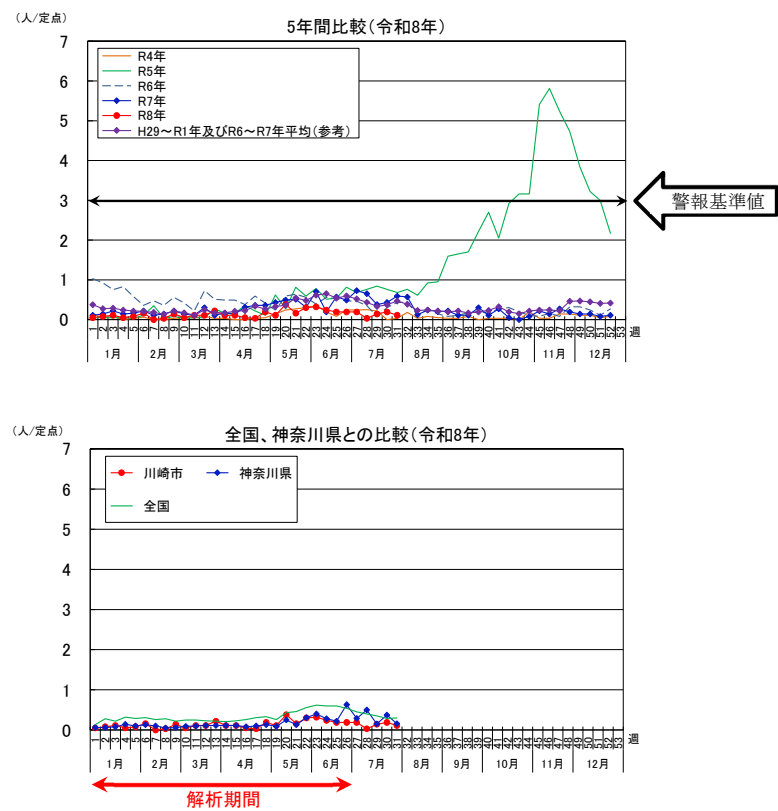
※2018 年第 9 週(2 月 26 日～3 月 4 日)から、国立感染症研究所における RS ウイルス感染症の集計方法が変更となりました。(報告数→定点当たり報告数)

咽頭結膜熱(警報基準値:定点当たり 3 人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.14 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 0.45 倍で、例年より低いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (3) を超えた週はありませんでした。

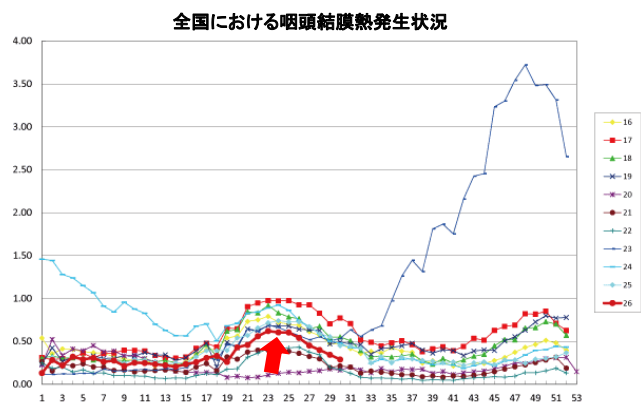


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりでした。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
幸区	男	1	R8.5.26	鼻腔拭い液	ヒトアデノウイルス 1 型

【全国及びその他】

全国的には例年並みのレベルで推移しました。

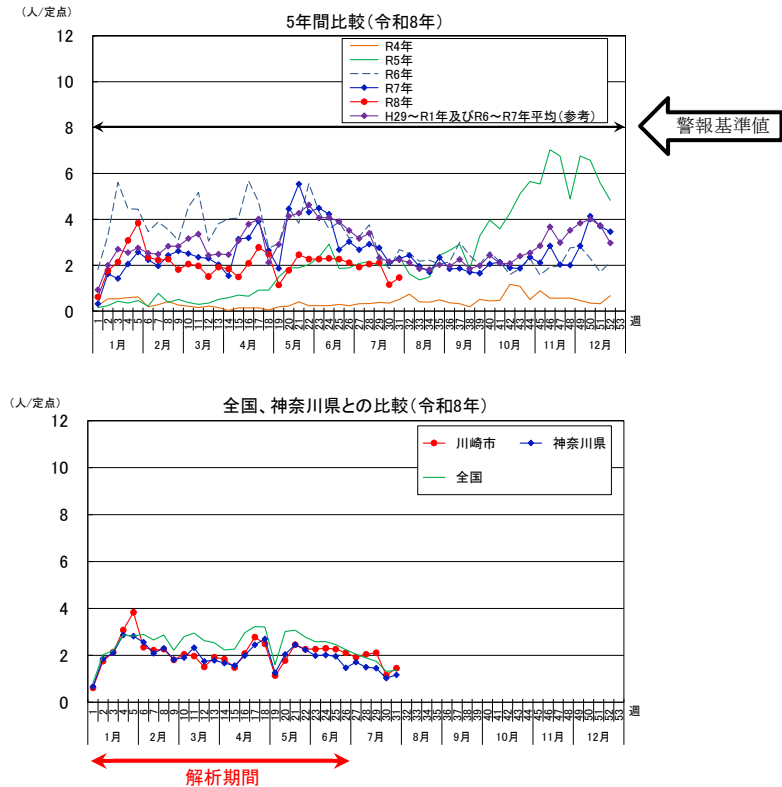


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(警報基準値:定点当たり8人)

【川崎市】

今期は定点当たり 2.13 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 0.69 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。年始から報告数が増加し、第 5 週（1 月 26 日～2 月 1 日）に流行のピーク（定点当たり 3.84 人）となりましたが、その後は減少し、第 6 週（2 月 2 日～2 月 8 日）以降は例年よりやや低いレベルで推移しています。

今期、流行発生警報基準値（8）を超えた週はありませんでした。

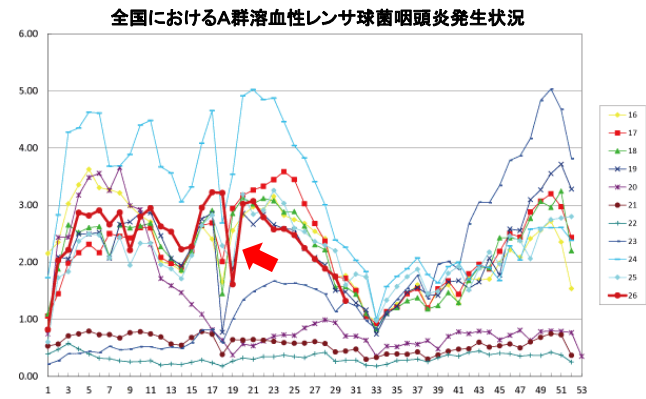


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりでした。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
中原区	男	7	R8.2.3	咽頭拭い液	A 群溶血性レンサ球菌 T 型別不能
中原区	女	10	R8.3.3	咽頭拭い液	A 群溶血性レンサ球菌 T 型別不能
中原区	男	6	R8.5.11	咽頭拭い液	A 群溶血性レンサ球菌 T 型別不能
中原区	男	5	R8.5.26	咽頭拭い液	A 群溶血性レンサ球菌 T4
中原区	男	5	R8.6.8	咽頭拭い液	A 群溶血性レンサ球菌 T 型別不能

【全国及びその他】

全国的には例年並みのレベルで推移しました。

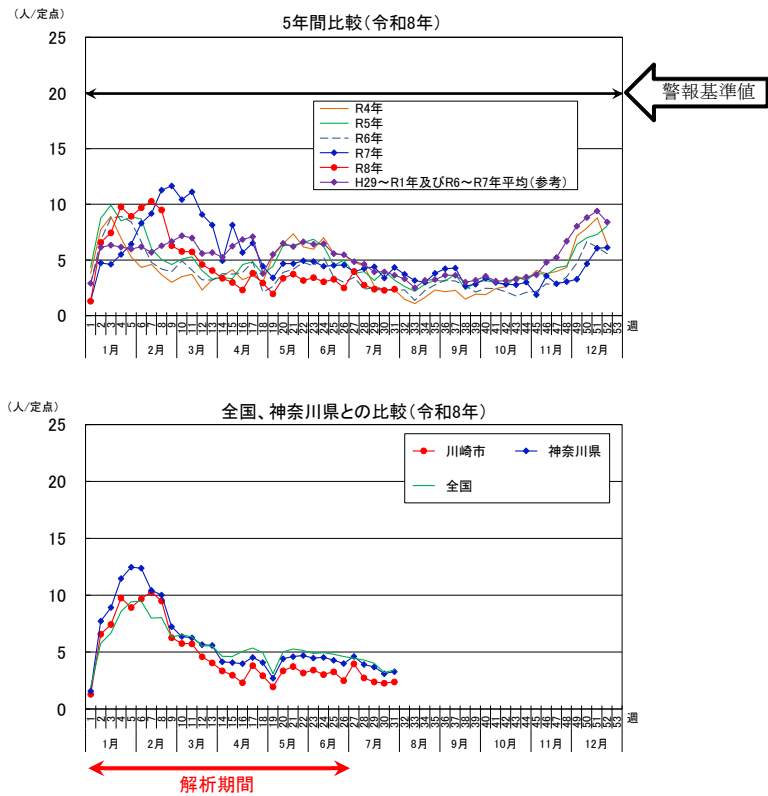


感染性胃腸炎(警報基準値:定点当たり 20 人)

【川崎市】

今期は定点当たり 5.04 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 0.84 倍で、例年並みのレベルで推移しました。1 月下旬以降報告数が増加し、例年より高いレベルで推移しましたが、2 月下旬以降報告数は減少し、その後は例年よりやや低いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (20) を超えた区及び週は、高津区で第 4 週、第 6 週及び第 7 週でした。

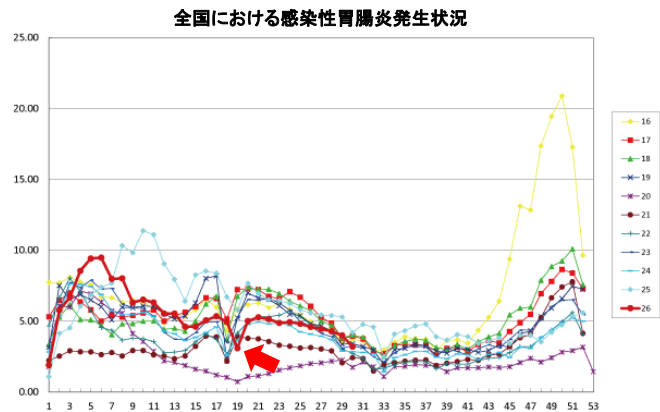


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりでした。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果(ウイルス)	検査結果(細菌)
高津区	男	9	R8.1.26	ふん便	ヒトアストロウイルス	陰性
幸区	男	2	R8.3.9	直腸拭い液	ノロウイルス GⅡ. 17	陰性
幸区	男	6	R8.3.25	直腸拭い液	ノロウイルス GⅡ. 17	陰性
幸区	男	2	R8.4.7	ふん便	ノロウイルス GⅡ. 4	陰性

【全国及びその他】

全国的にも例年並みのレベルで推移しました。

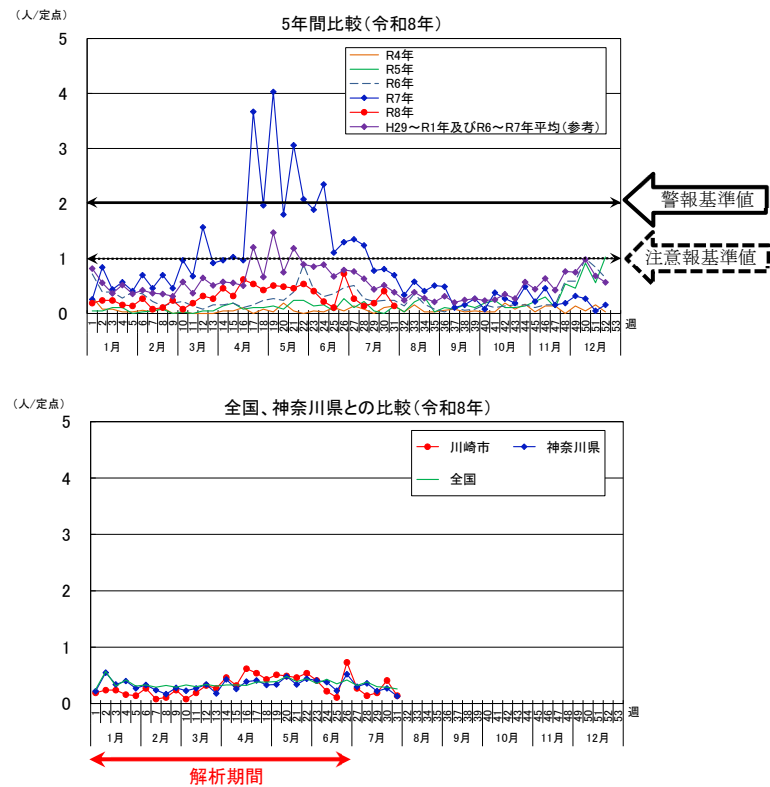


水痘(警報基準値:定点当たり2人、注意報基準値:定点当たり1人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.32 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 0.48 倍で、例年より低いレベルで推移しました。年始から例年よりやや低いレベルで推移していましたが、第 14 週（3 月 30 日～4 月 5 日）以降報告数が増加し、第 16 週（4 月 13 日～4 月 19 日）には定点当たり 0.62 人となりました。第 23 週（6 月 1 日～6 月 7 日）以降は一旦減少に転じましたが、第 26 週（6 月 22 日～6 月 28 日）に再び増加し、定点当たり 0.73 人となりました。

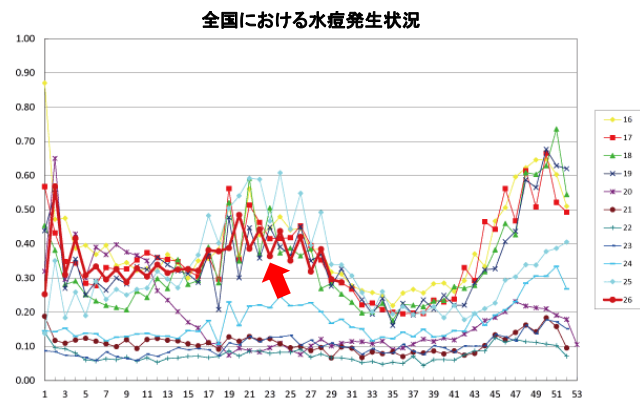
今期、流行発生警報基準値（2）を超えた週はありませんでした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。

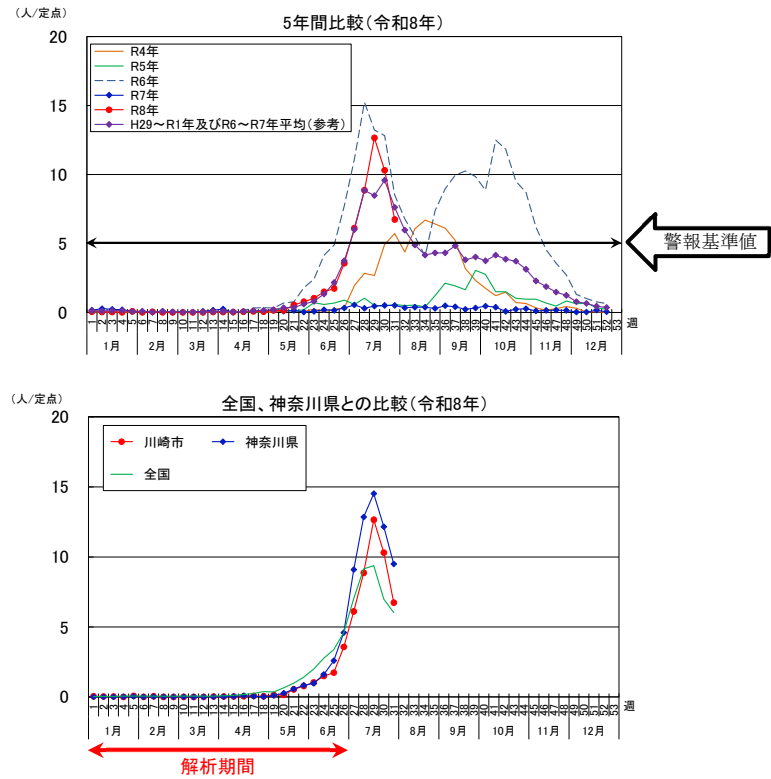


手足口病(警報基準値:定点当たり 5 人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.39 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 0.92 倍で、例年並みのレベルで推移しました。第 21 週（5 月 18 日～5 月 24 日）以降徐々に報告数が増加し、第 26 週（6 月 22 日～6 月 28 日）には定点当たり 3.57 人となりました。

今期、流行発生警報基準値（5）を超えた区及び週は、幸区で第 26 週でした。

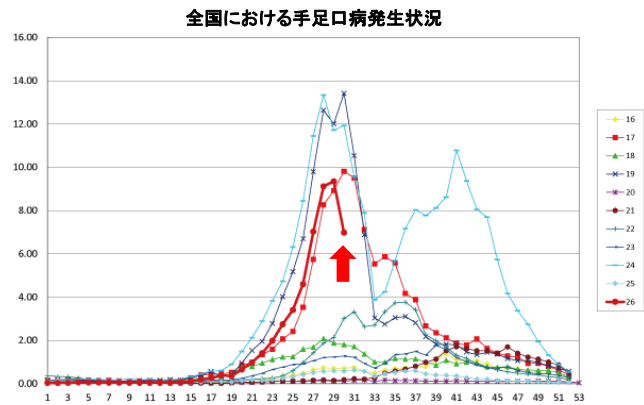


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりでした。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
高津区	男	2	R8.5.18	鼻咽頭拭い液	ライノウイルス、RS ウイルス(型別不能)、 パラインフルエンザウイルス 2 型、 パラインフルエンザウイルス 4 型
高津区	女	4	R8.5.29	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス 1 型
高津区	女	2	R8.6.11	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A6 型
高津区	女	2	R8.6.15	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A6 型

【全国及びその他】

全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。

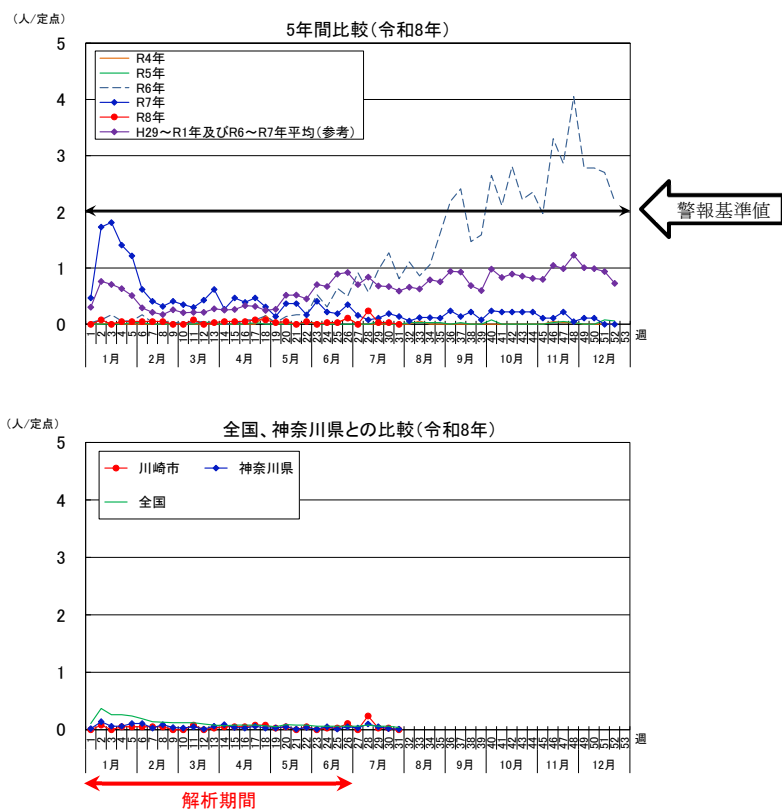


伝染性紅斑(警報基準値:定点当たり2人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.04 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 0.09 倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。

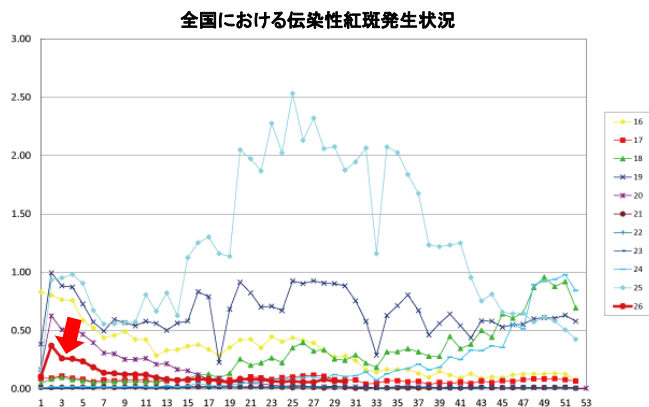
今期、流行発生警報基準値 (2) を超えた週はありませんでした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。

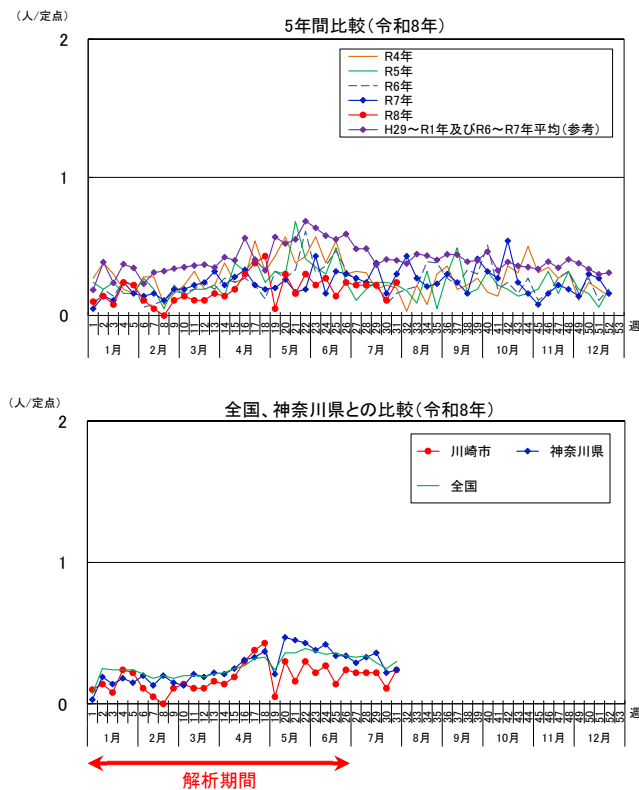


突発性発しん

【川崎市】

今期は定点当たり 0.18 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 0.43 倍で、例年より低いレベルで推移しました。年始から例年より低いレベルで推移していましたが、第 15 週（4 月 6 日～4 月 12 日）以降報告数が増加し、第 18 週（4 月 27 日～5 月 3 日）には定点当たり 0.43 人となりました。その後報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しました。

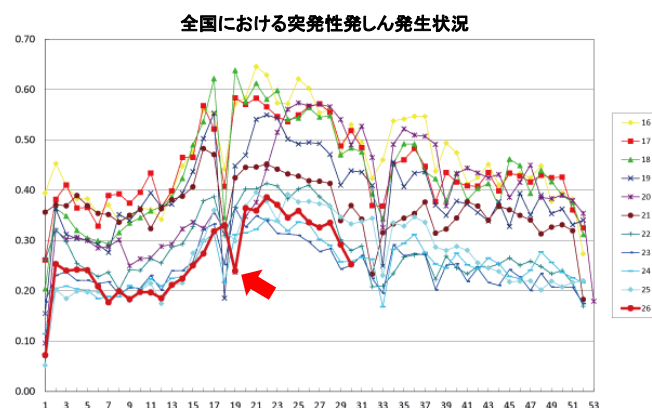
また、年齢階級別では 1 歳以下が 71.9%を占めていました。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

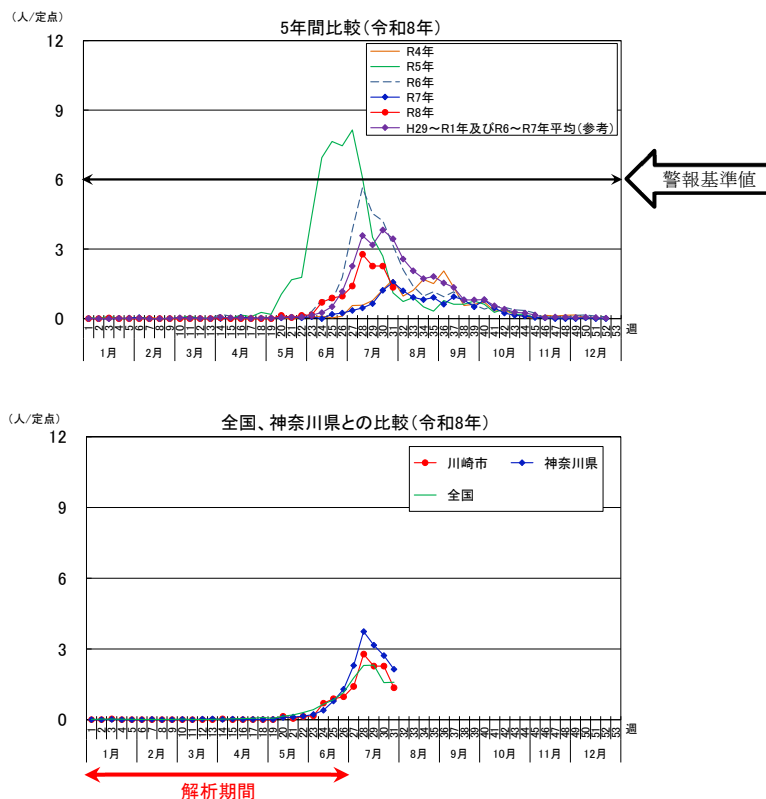


ヘルパンギーナ(警報基準値: 定点当たり 6 人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.12 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 1.20 倍で、例年並みのレベルで推移しました。第 24 週（6 月 8 日～6 月 14 日）以降徐々に報告数が増加し、第 26 週（6 月 22 日～6 月 28 日）には定点当たり 0.97 人となりました。

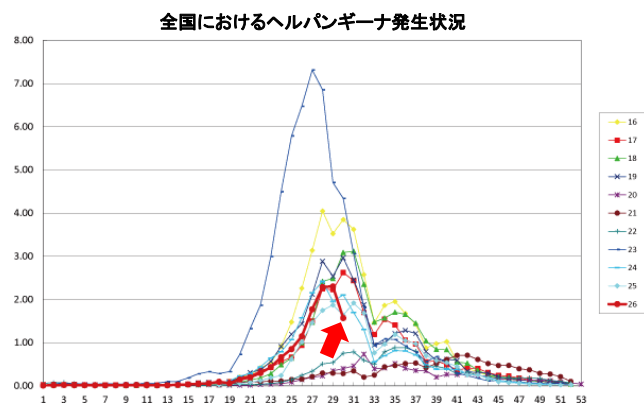
今期、流行発生警報基準値（6）を超えた週はありませんでした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年並みのレベルで推移しました。

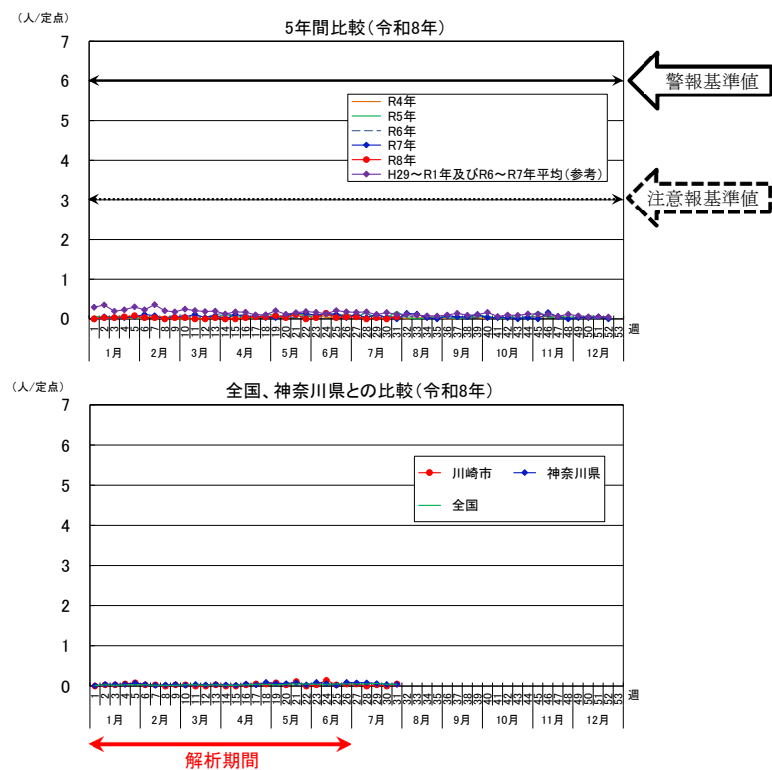


流行性耳下腺炎(警報基準値:定点当たり6人、注意報基準値:定点当たり3人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.04 人の報告があり、過去 5 年平均と比較する 0.20 倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。

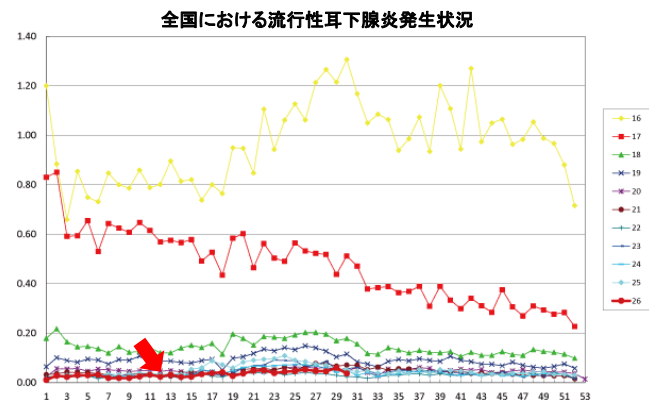
今期、流行発生警報基準値 (6) を超えた週はありませんでした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。



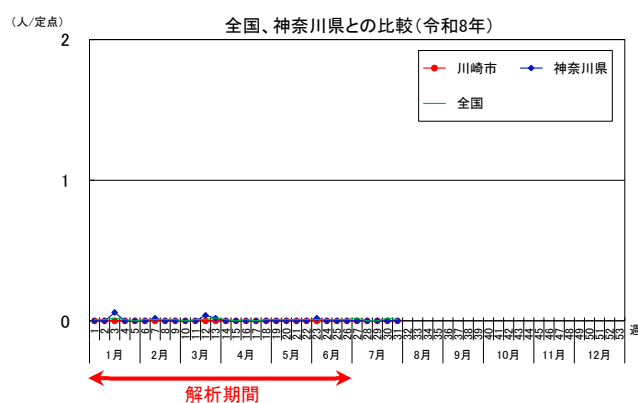
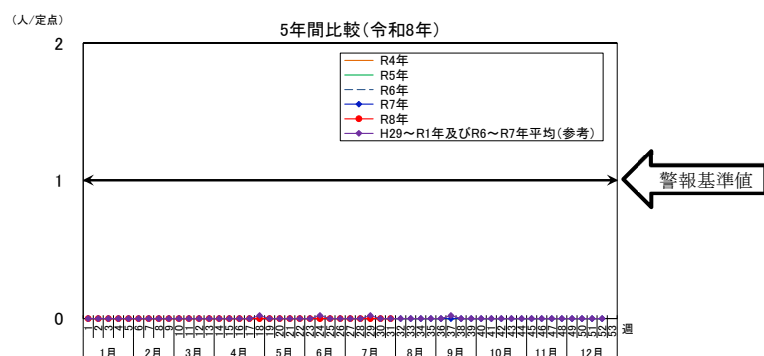
<眼科定点対象疾患>

※令和2年～令和5年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、他疾患の報告数が通常と異なる傾向であったため、平成29年～令和元年及び令和6年～令和7年の平均を過去5年平均とし、比較を行った。

急性出血性結膜炎(警報基準値:定点当たり1人)

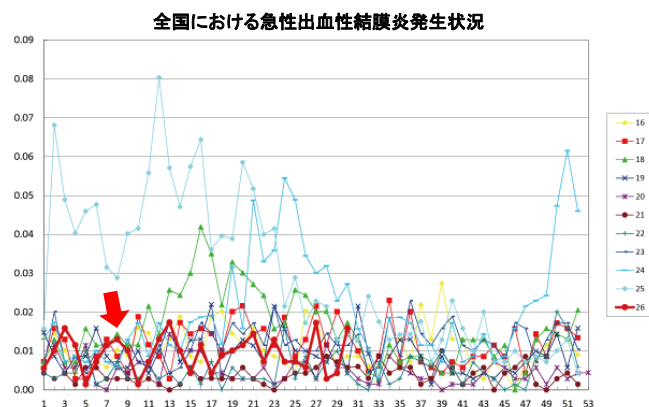
【川崎市】

今期は報告がありませんでした。



【全国及びその他】

全国的には例年並みのレベルで推移しました。

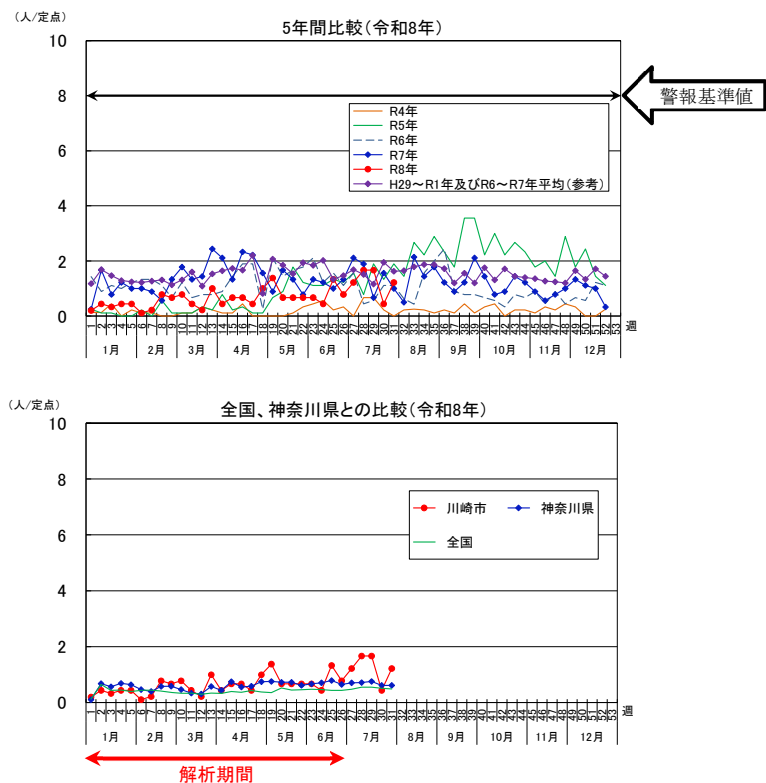


流行性角結膜炎(警報基準値:定点当たり 8 人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.62 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 0.41 倍で、例年より低いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (8) を超えた週はありませんでした。

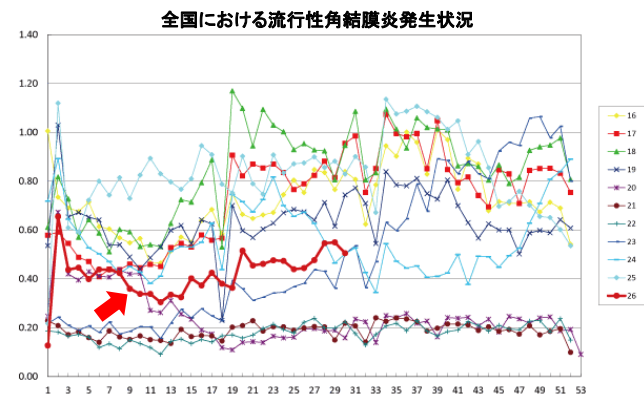


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりでした。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
川崎区	男	31	R8.1.13	眼脂	ヒトアデノウイルス 54 型
川崎区	女	2	R8.1.16	眼脂	ヒトアデノウイルス 54 型
川崎区	男	71	R8.1.22	眼脂	ヒトアデノウイルス 54 型
川崎区	女	8	R8.1.23	眼脂	ヒトアデノウイルス 54 型
川崎区	男	39	R8.1.27	眼脂	ヒトアデノウイルス 56 型
川崎区	女	28	R8.6.1	眼脂	ヒトアデノウイルス 54 型
川崎区	女	36	R8.6.2	眼脂	ヒトアデノウイルス 37 型
川崎区	男	39	R8.6.16	眼脂	陰性

【全国及びその他】

全国的には例年よりやや低いレベルで推移しました。



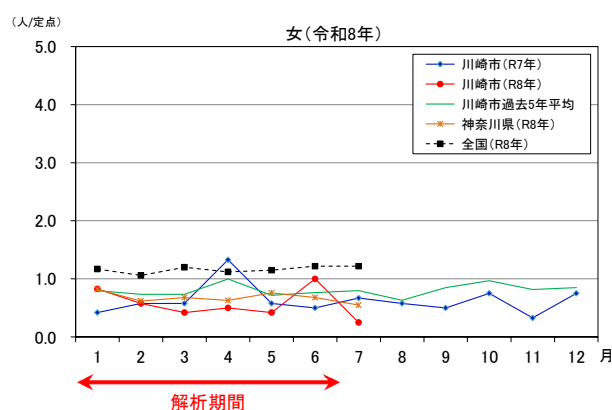
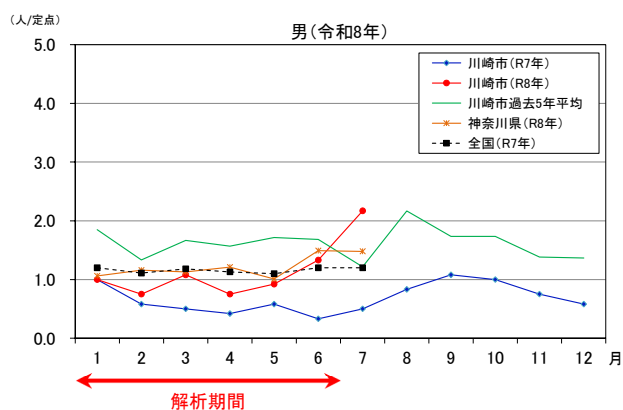
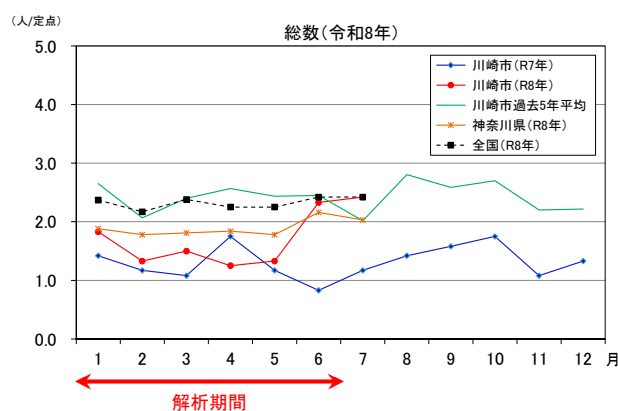
<性感染症定点対象疾患>

※新型コロナウイルス感染症が流行した令和2年～令和5年においても、報告数に変化がみられなかったため、過去5年平均と比較を行った。

性器クラミジア感染症

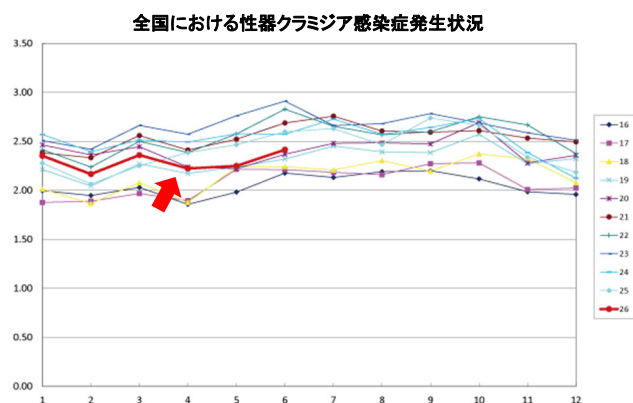
【川崎市】

今期は定点当たり1.60人の報告があり、過去5年平均の報告数と比較すると0.66倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。男性、女性ともに6月に報告数が増加しました。



【全国及びその他】

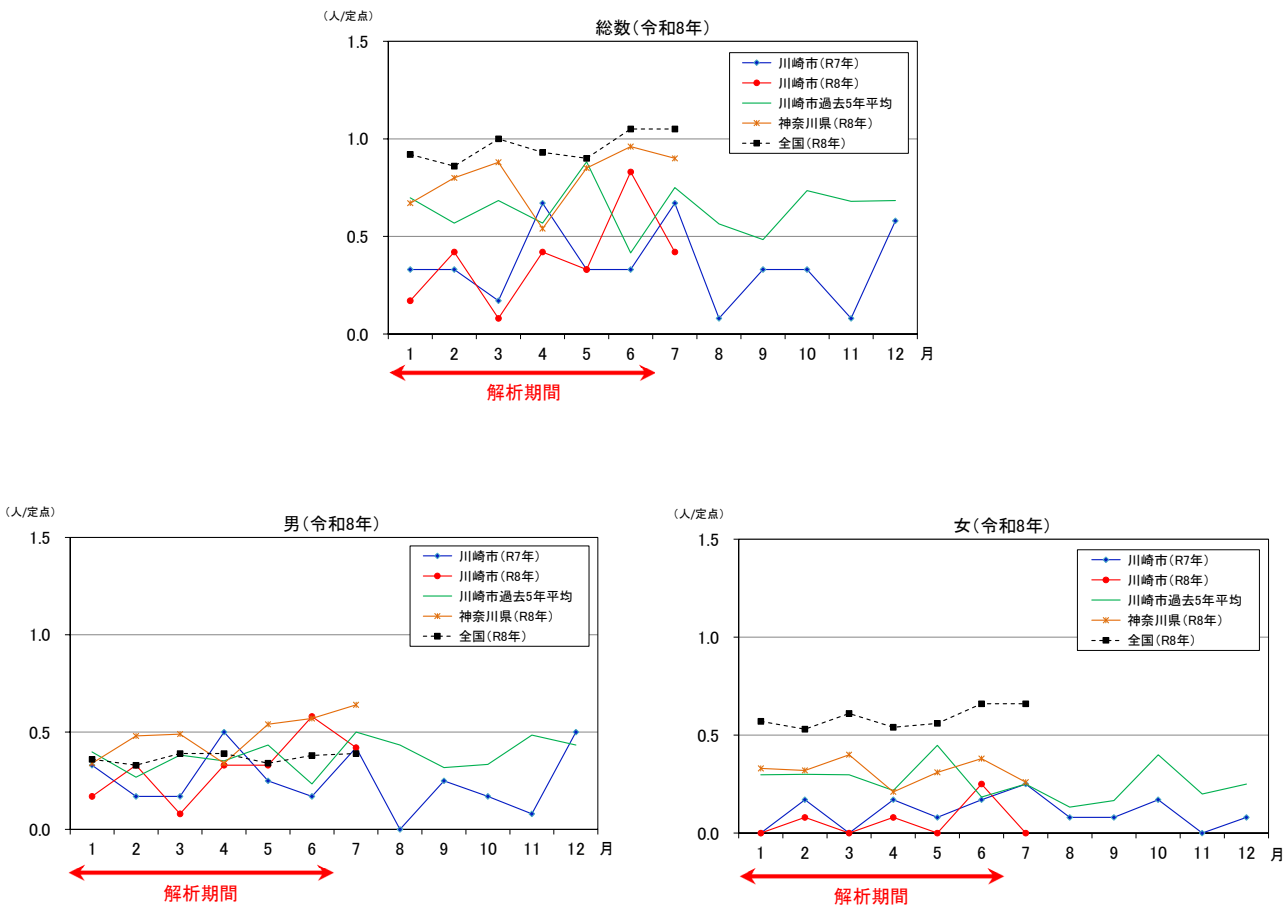
全国的には例年並みのレベルで推移しました。



性器ヘルペスウイルス感染症

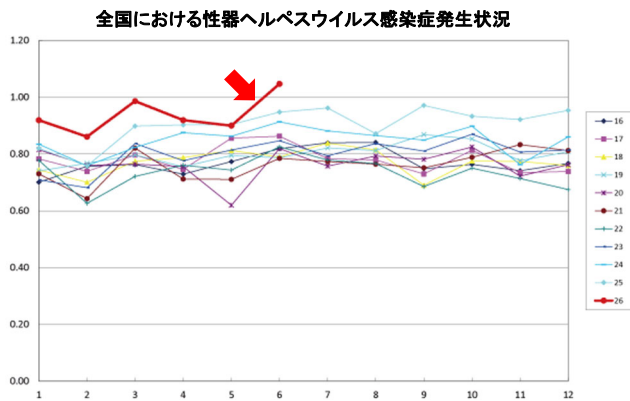
【川崎市】

今期は定点当たり 0.38 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.60 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。男性、女性ともに 6 月に報告数が増加しました。



【全国及びその他】

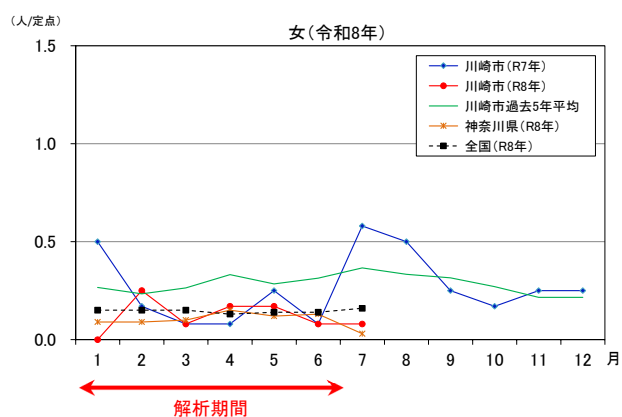
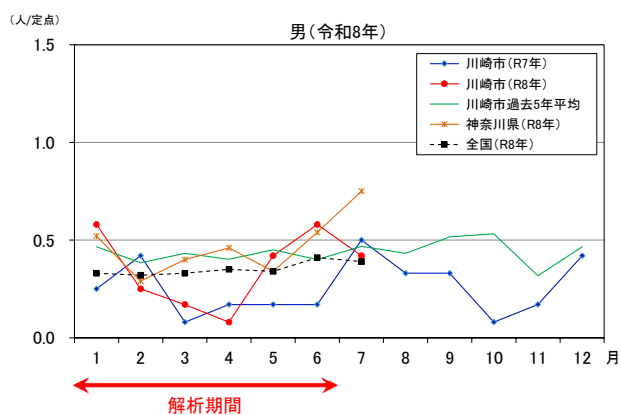
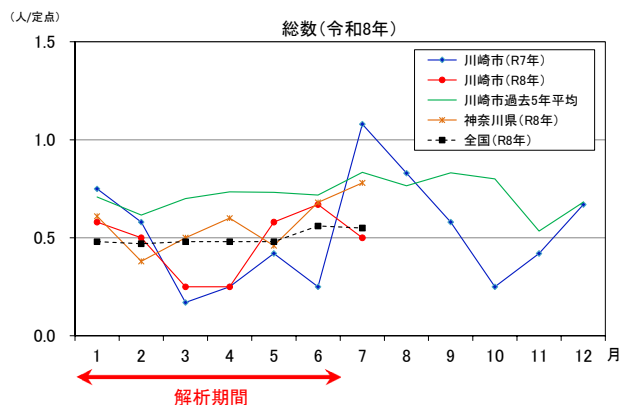
全国的には例年より高いレベルで推移しました。



尖圭コンジローマ

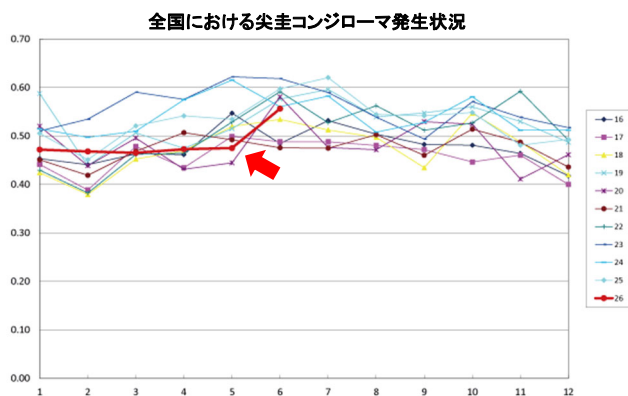
【川崎市】

今期は定点当たり 0.47 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.67 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。男性は 1 月及び 6 月、女性は 2 月に報告数が増加しました。



【全国及びその他】

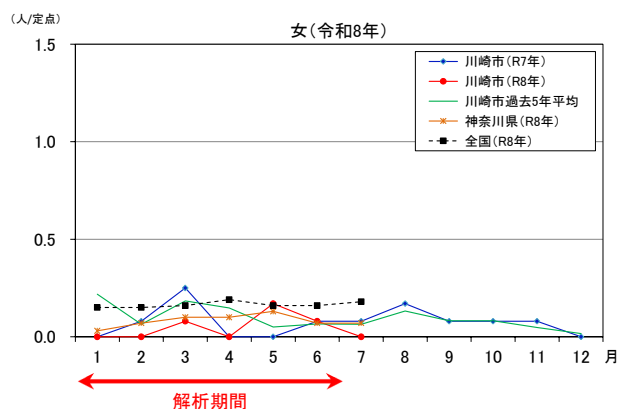
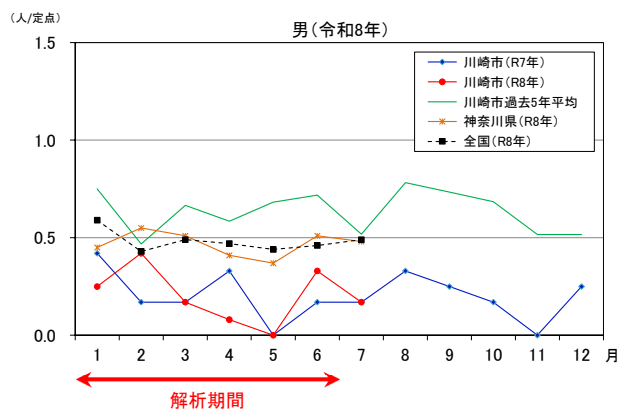
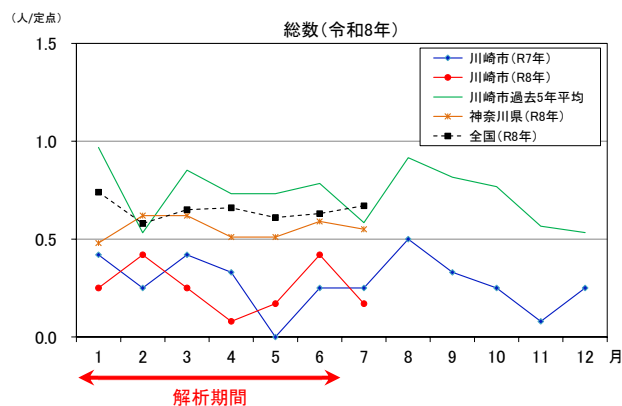
全国的にも例年よりやや低いレベルで推移しました。



淋菌感染症

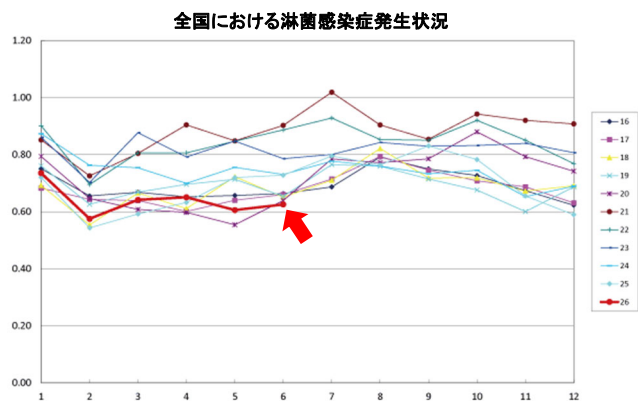
【川崎市】

今期は定点当たり 0.26 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.34 倍で、例年より低いレベルで推移しました。男性は 2 月及び 6 月に報告数が増加しました。



【全国及びその他】

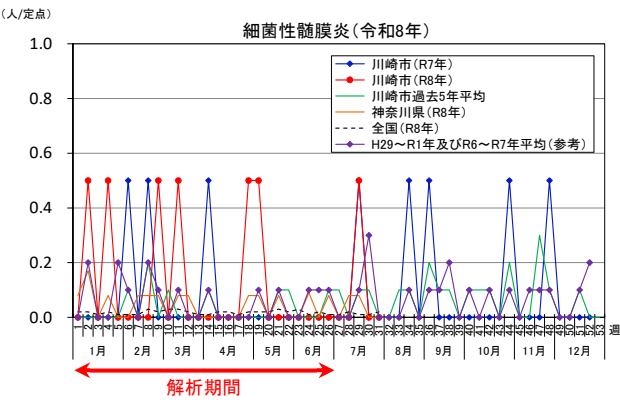
全国的にも例年より低いレベルで推移しました。



細菌性髄膜炎

【川崎市】

今期は定点当たり 0.12 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 2.00 倍で、例年より高いレベルで推移しました。第 2 週、第 4 週、第 9 週、第 11 週、第 18 週及び第 19 週に各 1 件の報告がありました。

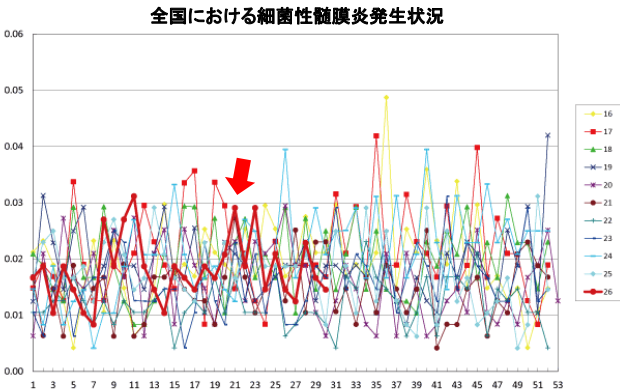


なお、検出された病原菌は次のとおりでした。

区名	患者性別	患者年齢	届出週	検査材料	検査結果
川崎区	女	74	第 2 週	髄液	<i>Enterococcus faecium</i>
宮前区	男	66	第 4 週	血液	<i>Streptococcus agalactiae</i>
宮前区	男	90	第 9 週	血液	<i>Streptococcus agalactiae</i>
川崎区	男	66	第 11 週	髄液	<i>Staphylococcus aureus</i>
川崎区	女	50	第 18 週	髄液	陰性
川崎区	男	48	第 19 週	髄液	<i>Streptococcus</i> other groups

【全国及びその他】

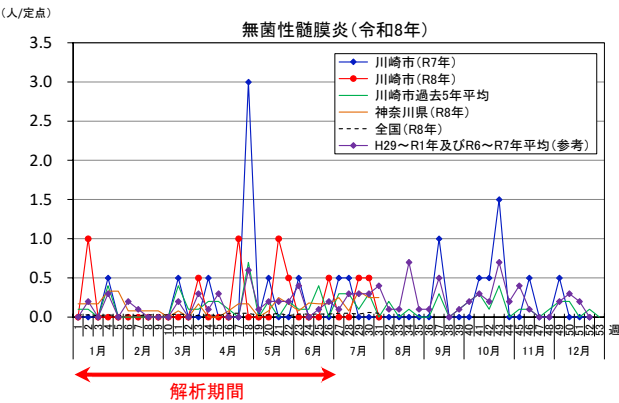
全国的には例年並みのレベルで推移しました。



無菌性髄膜炎

【川崎市】

今期は定点当たり 0.17 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 1.18 倍で、例年並みのレベルで推移しました。

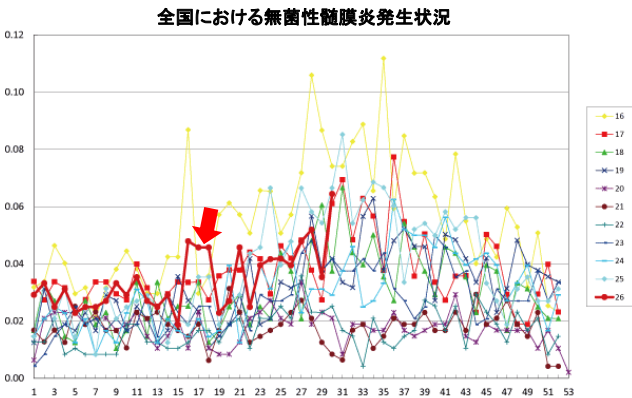


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりでした。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
川崎区	男	78	R8.3.20	髄液	陰性
川崎区	男	76	R8.4.21	髄液	陰性
川崎区	女	50	R8.4.25	髄液	陰性
川崎区	男	91	R8.5.23	髄液	水痘・帯状疱疹ウイルス、EB ウイルス
川崎区	女	65	R8.6.22	髄液	陰性

【全国及びその他】

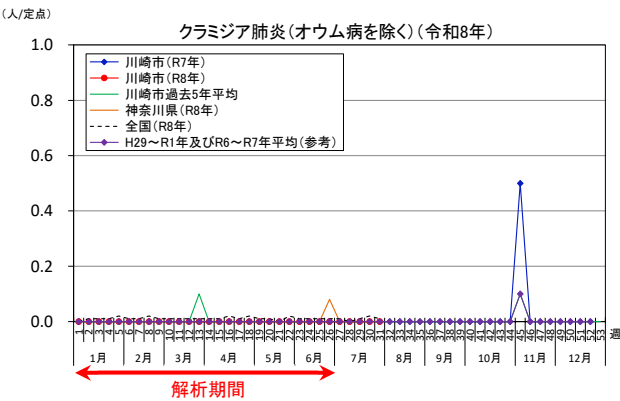
全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。



クラミジア肺炎(オウム病を除く)

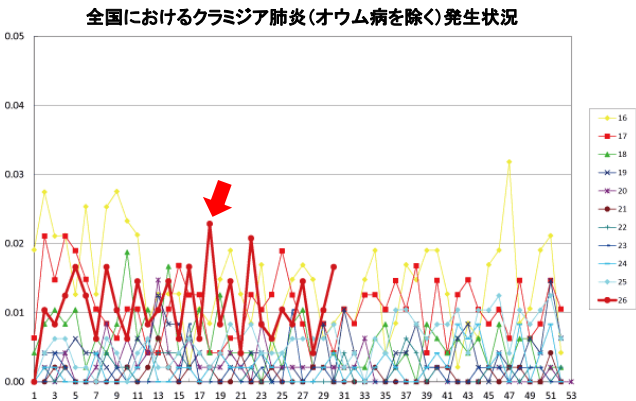
【川崎市】

今期は報告がありませんでした。



【全国及びその他】

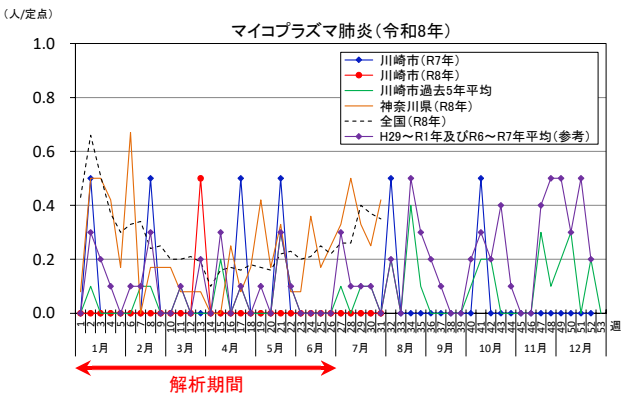
全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。



マイコプラズマ肺炎

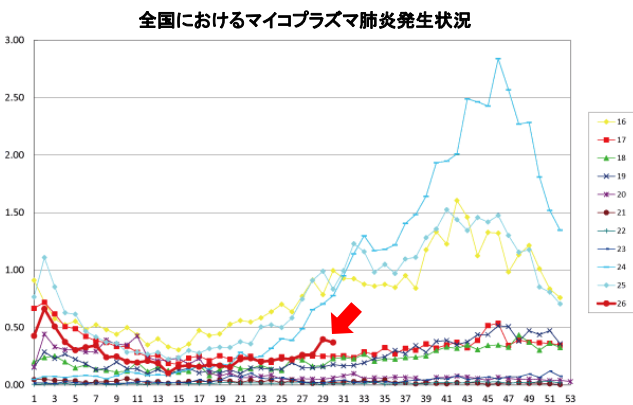
【川崎市】

今期は定点当たり 0.02 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 0.23 倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。第 13 週に 1 件の報告がありました。



【全国及びその他】

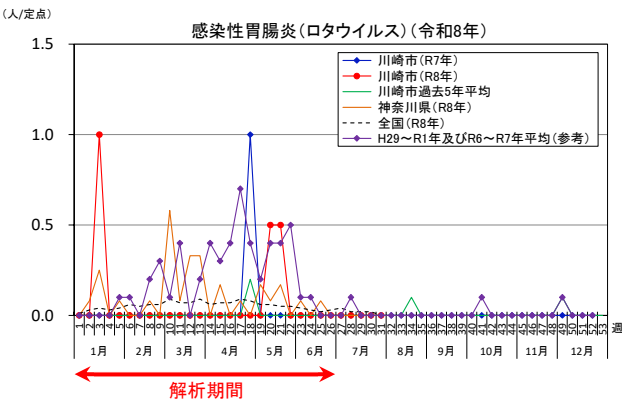
全国的には例年並みのレベルで推移しました。



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

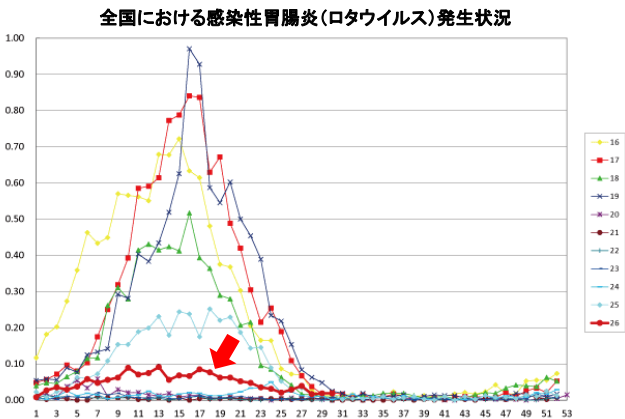
【川崎市】

今期は定点当たり 0.08 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 0.39 倍で、例年より低いレベルで推移しました。第 3 週に 2 件、第 20 週及び第 21 週に各 1 件の報告がありました。



【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。



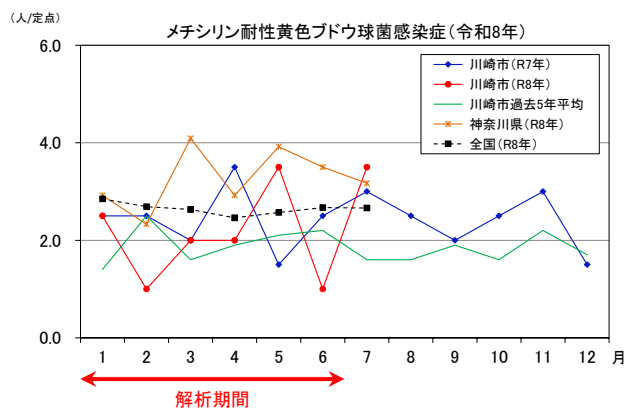
<基幹定点対象疾患（月報）>

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

※新型コロナウイルス感染症が流行した令和2年～令和5年においても、報告数に変化がみられなかったため、過去5年平均と比較を行った。

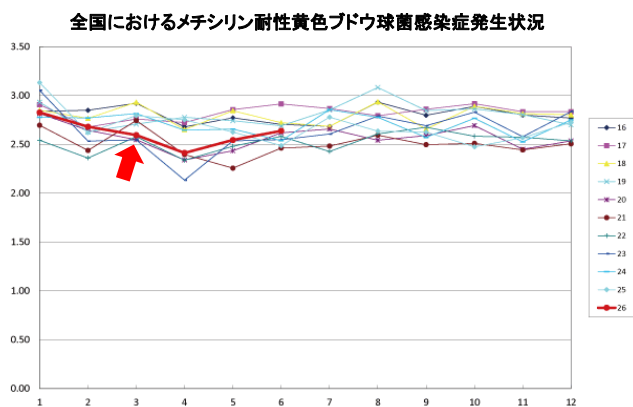
【川崎市】

今期は定点当たり2.00人の報告があり、過去5年平均の報告数と比較すると1.03倍で、例年並みのレベルで推移しました。



【全国及びその他】

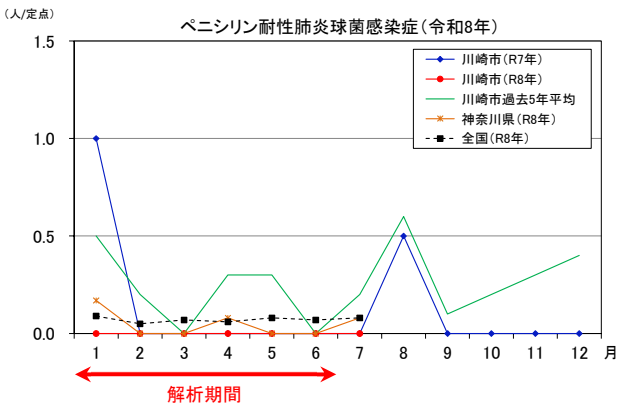
全国的には例年よりやや低いレベルで推移しました。



ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

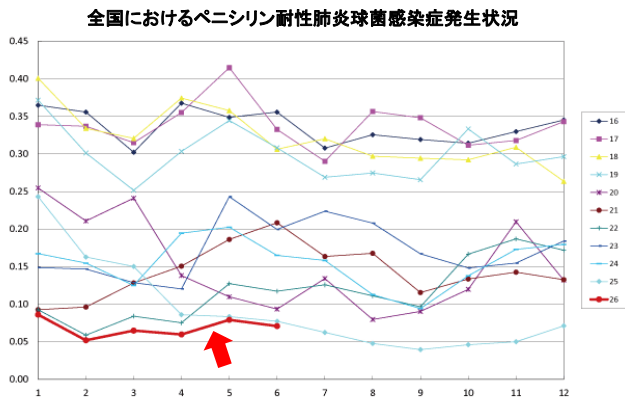
【川崎市】

今期は報告がありませんでした。



【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。

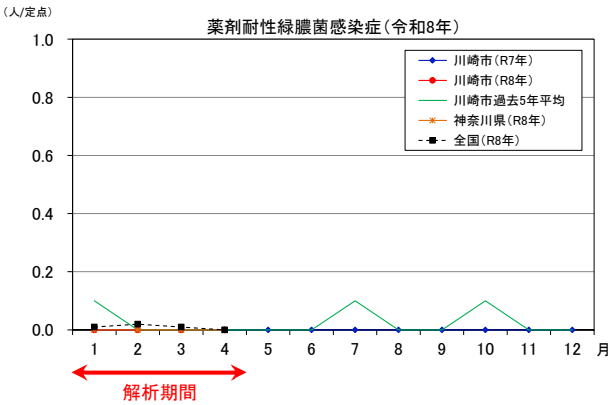


薬剤耐性緑膿菌感染症

【川崎市】

今期は報告がありませんでした。

なお、薬剤耐性緑膿菌感染症は、令和 8 年 4 月 6 日から届出基準が変更されるとともに、「多剤耐性緑膿菌感染症」と名称変更され、全数把握対象疾患となりました。



【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

